

花道と仮花道

花道は歌舞伎劇場の舞台の延長です。花道は、長く狭い歩道で、主要な舞台と客席を繋ぐために、観客の間を通り劇場の裏手から主要な席の左中央まで、かかっています。花道は道、城の通路、はたまた海に至るまで様々な場面のために使われます。俳優が花道を使う際、彼らは舞台に素晴らしい物語と興奮を加えるため、まさしく観客の中心で演じるのです。俳優は揚幕をくぐって登場します。揚幕は観客に俳優が登場することを知らせるため、木のブロックを打ち合わせた音と共に開き、舞台を盛り上げます。

花道は幅 1.3 メートル、長さ 14 メートルです。これは鳥屋と呼ばれる、俳優が出入りする小さな場所に通じています。登場人物の出入りに用いられるだけでなく、花道は舞台上の主要な場面から離れた場面のためにも用いられます。歌舞伎の舞台に欠かせないもののなのです。

仮花道は、舞台裏から舞台まで、劇場の右側に沿って作られています。幅 0.8 メートル、長さ 14 メートルです。仮花道は江戸時代に、元々は観客席までの通路として作られました。しかし、昔の歌舞伎俳優が、この通路がドラマチックな演出に使える可能性に気づき、それからもうひとつの花道として舞台で使われるようになりました。

金丸座でも芝居によっては両方の花道が用いられており、観客は最大限歌舞伎を楽しむことができます。